天真正伝香取神道流剣術が文化庁長官表彰

古武道流派で初

表彰状を受ける飯篠快貞・天真正伝香取神道流剣術第20代宗家（右）

令和２年度文化庁長官表彰の表彰式が昨年12月17日、東京都港区の赤坂インターシティコンファレンスで行われ、天真正伝香取神道流剣術が古武道流派としては初めて団体表彰された。

本表彰は文化活動に優れた成果を示し、我が国の文化の振興に貢献された方々、または日本文化の海外発信、国際文化交流に貢献された方々に対し、その功績を称えて文化庁長官が表彰するもので、本年度は76個人、1団体が表彰された。

表彰式は新型コロナウイルス感染防止のため、出席者を限定した形で実施された。

式では国歌の演奏が流された後、宮田亮平長官より一人ずつ表彰状が手渡された。授与後、宮田長官が挨拶に立ち、「表彰を受けられた皆様、また長年にわたり支えてこられたご家族ならびに関係者の皆様、本日は誠におめでとうございます。本表彰は我が国古来からの伝統文化を継承してこられた方々の功績を称え、表彰を行うものであります。

91年間の生涯で500もの企業の経営に携わられ、日本の資本主義の父といわれる渋沢栄一は『どんなに勉強し、勤勉であっても上手くいかないこともある。それは機がまだ熟していないからである。ますます自らを鼓舞して耐えなければならない』と言われました。皆様は今日に至るまで数多くの失敗や挫折に耐えて自らを鼓舞し、そしてまた想像を超える努力をしてこられたことと思います。

世界が困難な状況となり、はや一年が経ちますが、我らがこの危機を乗り越えた時、今まで通りの文化・芸術活動が再開され、世界に誇る我が国の文化を牽引する皆様がより輝いて見えることと思います。

頼もしい皆様方の力をお借りしながら、私も文化庁長官として先頭に立ち、コロナ後の世界で文化の灯火をより強く輝かせることができるよう尽力していきたいと思います。本日は誠におめでとうございます」と祝辞を述べた。

●喜びの声
天真正伝香取神道流剣術
第20代宗家・飯篠快貞氏

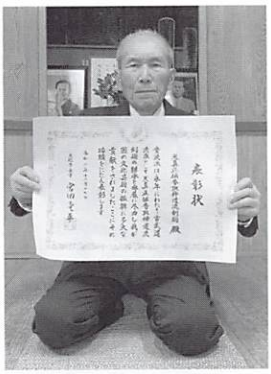
「この度は日本武道館、日本古武道協会をはじめ、関係各位のご尽力のおかげを持ちまして、栄えある文化庁長官表彰を賜り、厚く御礼申し上げます。古武道が文化財として後世に残るよう努力し続けることが我々の使命であり、本日、より一層その覚悟を深めました。

古来よりある武術を流祖飯篠長威斎家直が体系化し、後にさまざまな流派が生まれました。現在も伝承され、残っている古武道の流派はそう多くはありませんが、日本古武道のために各流派の先生方と今後も努力し続けていくことが、我々の使命であります。

戦後、占領下においては武道が禁止となる苦しい時代もありましたが、当時の師範林弥左衛門が中心となって型を維持し、現在に至っております。その間、地元である千葉県では、古武道としては日本で初めて、昭和35年に無形文化財に指定されました。

当流では若い門弟たちが頑張って稽古をしています。『来るものは拒まず、去る者は追わず』という方針のもと、努力し続けていきたいと考えています。今後、古武道各流派が発展し、さらに隆盛となるよう切に願います」

出席者による記念撮影（前列左端が飯篠快貞宗家）


表彰状を掲げる飯篠快貞宗家

天真正伝香取神道流剣術

■由来

日本武道の源流「天真正伝香取神道流」は、飯篠長威斎家直を流祖として、下総の国（現在の千葉県）香取の地に伝承する武道である。家直公は香取神宮奥の院に近い梅木山に隠棲、ご神徳ある香取大神に1千日の大願をたて、斎戒沐浴、粉骨砕身の修行の末、満願に至る時、香取大神より神示と共に神書1巻を授けられた。その後、子孫連綿と続き、現在20代目飯篠快貞氏に至る。

有名な門流には、上泉伊勢守、塚原土佐守及び卜傳、松本備前守、諸岡一羽斎、豊臣秀吉の軍師竹中半兵衛、奥州仙台家老片倉小十郎（白石城主）、幕府旗本には中台信太郎、松本直一郎、伊庭軍兵衛ら、また諸藩の代々指南家等々、枚挙にいとまがない。

■系譜

流祖・飯篠長威斎家直—盛近—盛信—盛綱—盛秀—盛繁—盛信—盛長—盛久—盛定—盛重—盛次—盛清—長照—盛照—盛重—盛房—盛貞—金次郎—快貞

■流儀の特徴

剣術、居合術、柔術、棒術、槍術、薙刀術、軍学などを学ぶ総合武術である。一つ一つの型が非常に長く作られていて、稽古中は仕太刀と受太刀が激しくぶつかり合う。それは他から技を盗まれないようにしているためである。

■流儀の教え

家直公は「敵に勝つものを上とし、敵を討つ者は之に次ぐ」と教えている。敵を討てばいつまでも続く遺恨、敵意で鎮まらず、これを避けるために敵意なき方法で鎮める、これは古今通づる法則、すなわち「兵法は平法である」と教えている。